



いよいよ立春！と思ったら、立春のその日に春一番が吹いて少し気持ちが浮き立った春の始まりとなりました。強い風が吹いたり雨が降ったり、何かと不安定な天気が続いてようやくやって来る春。ここ東京では雨もようやく戻って来て、木々の冬芽がほころび始めたようです。

二代目の品格

先日、新道場建設にあたり多大なるご支援を頂いているH社の新社屋落成式に出席させていただきました。先代が材木問屋として創業して54年、現在そのご子息が二代目として社長をお務めです。来賓の方々の挨拶を伺っておりますと、先代社長の時代からの古いお付き合いのこと。当時のエピソードから先代が大切にし次代に継承した経営哲学や二代目がそれ

を踏まえどう発展させていったのかなど興味深く拝聴させていただきました。半世紀に渡って時代の荒波を乗り越え事業をどう存続発展させていったかなどの方法論はさて置き、なによりも二代目社長としてのそのあり方に着目しました。現在の社長は手足の長いスラッとした長身でまるで七福神の一人であるかのような柔和なお顔立ちです。かつ、先代との違いを証明しよ

うと肩に力が入ったよくある二代目社長のかどうかという印象とは一切無縁の凛とした清々しさを兼ね備えておられます。二代目の品格ここにあり。先代の時代からお付き合いのある皆様に益々可愛がられ育てられるわけだと合点が行く思いがしました。やり方よりあり方。あり方が定まっているからこそやるべきことが明確になるということを体現されていると感じました。(太)

道場の体験メニュー

神田すずらん館は、平日の日中は一般の方々や旅行者向けの侍・忍者体験を、平日夜間は認定講師による武術武芸教室、週末は不定期でゲスト講師による侍・忍者をテーマとした芸事の特別講習を行います。侍・忍者体験は今でこそ巷に溢れていますが、当館の特徴は、①アクセス至便な都心の好立地にある本物の道場での本格体験、②役者やスタントマン、殺陣師、その他のアルバイトインストラクターではなく実際に武術修行を行っている武術家による本格指導、③おもちゃや模造刀を使った格好だけの体験ではなく実際に侍や忍者が使用した本物の真剣による試し斬りや手裏剣打ちが体験できることです。つまり、雰囲気だけでは満足できない本格志向の方々を対象としています。体験コースについて詳しくは別紙をご参照下さい。夜間の教室は1回3,000円で参加が可能で、月謝1万円で何度でも通える会員制度も用意しております。また体験コースはビジネス研修としても提供しています。詳しくは当館WEBサイトを御覧ください。(太)

ようこそ太仁亭へ！

パイナップルが大好きです。丸ごと葉っぱ付きで買って来たものを、番頭さんがキレイにカットしてくれます。私の母から続くパイナップル好きは、番頭さんにもお豆ちゃんにもしっかり受け継がれ、家族全員パイナップルが大好き。この甘く芳醇な香りのパイナップルを余すことなく食べ尽くしたくて、太仁亭では様々に工夫しています。本来捨てるはずの芯は、細かく刻んで同量の黒糖と黒酢（或いは2:1:1でも）に漬けてパイナップルピネガ

ーに。牛乳や炭酸、お湯で割って頂きます。ピネガーを飲み干した後に残ったその芯は、フードプロセッサーで細かく刻んでチャツネとしてカレーに使います。削がれて実がたっぷりついた皮はミミズ箱（コンポスト）に入れて堆肥化し、鉢植えや畑へ。大好き過ぎて最後の最後まで堪能したくて、こうしてミミズ達にもお裾分けし、最終的には堆肥として活躍してもらっています。ごみの削減にも一役買っていることに大満足です。(仁)

日本刀から生まれた言葉達-1「折り紙つき」

評判がよく信用できるものや人物であると保証する時によく使われる言葉ですが、もともと刀剣や書画の伝来についての鑑定書のこと、品質保証をつけるくらい良いという意味で使われるようになりました。最近ではユーザーレビューや

口コミこそ当たり前になってきましたが権威ある「折り紙」はなかなか見なくなりました。似たようなものがあふれる今という時代だからこそ消費者の選択を手助けする「折り紙つき」の商品やサービスが求められるかもしれません。(太)

今月のお豆ちゃん

1月の下旬に誕生日を迎えて、お豆ちゃんは4歳になりました。ロウソクの火を消した後ののはにかんだ笑顔は、2歳の誕生会の時から見られるようになり、その笑顔は年々華やかになって、我々にとっては眩しいばかりです。

3歳になってから様々な事が出来るようになり、外出も苦ではなくなったこの一年でしたが、さて4歳はどんな成長を見せてくれるのか、とても楽しみです。(仁)



野に咲く花を

今年の誕生パーティの席を彩ってくれたお花は、ガーベラ。今年もお豆ちゃんを選んでくれました。野に咲く花を飾るのが理想ですが、時期的に野にはあまり花がなく、住まい的にもドアを開ければ野に出られるという環境ではないので、近くのスーパーで選んでいます。けれど、考えてみればこの時期は水仙が香り豊かに咲く季節。庭が手に入ったら、水仙を植えたいという新たな夢が生まれました。(仁)

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日：2019.2.12 立春（りっしゅん）

黄鶯暇院（うぐいすなく）

発行所：株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

TEL/FAX 042-697-7473

https://ccore.co.jp/

過去号：ウェブサイト1からご覧頂けます。